

商工労働部 マネジメント方針

商工労働部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

平成 29 年 4 月 1 日

商工労働部長 港 道 則 男

【基本方針】

企業立地戦略に基づき、企業の立地を推進し雇用と就業機会の創出に努めるとともに、中小企業・小規模事業者や創業者に対してニーズに即した支援を行いながら、地域産業の競争力向上を図ります。併せて、リノベーションなど民間主体のまちづくり活動と連携しながら中心市街地の活性化に取り組むとともに、オール福井体制で商圈の維持・拡大に取り組むなど商業の振興を図ります。

地方の労働力不足が深刻化する中、若者、女性、高齢者など、誰もが安心して働けるまちを目指します。

特に、北陸新幹線福井開業を見据えて観光誘客の促進を図るため、観光文化局は、本市の観光と文化を融合し、戦略的なシティプロモーションに努めるとともに、観光振興計画に基づく二次交通の充実や観光地の魅力向上、外国人観光客の誘致に取り組むなど、これまでの通過型観光から交流滞在型観光への転換を図ります。

さらに、文化芸術の振興を図り、豊かな文化や歴史、自然をふるさとの誇りとして継承・活用し、魅力ある観光地域づくりにつなげます。

【組織目標】

- I. 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります
- II. 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります
- III. U・I ターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します。
- IV. 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます
＜観光文化局担当＞
- V. (I) 食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします
- VI. (II) 福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします
- VII. (III) 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます
- VIII. (IV) 多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます
- IX. (V) 文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

【行動目標】

I. 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります

1 商業の振興

消費の県外流出を防ぐとともに、県外からの取込みを図るため、市内の商業施設や商店街などと一致団結して、オール福井体制で販売促進や集客力向上のための取組を実施し、市内商業者の商圏の維持と拡大に努めます。

市内商業者による合同事業の実施	：	12月までに
-----------------	---	--------

2 企業立地の推進

福井市企業立地戦略に基づき、本市の産業の発展に資する効果的な企業立地施策に取り組みます。

企業立地フェアにブースを設置するなど、東京事務所と連携し、県外企業に対し本市の支援制度や強みをアピールして企業誘致に努めるとともに、市内企業の規模拡大にも対応した企業立地を推進します。

また、企業の状況を把握するため積極的に企業訪問を行い、支援の強化に努めます。

企業立地支援指定数	：	12件(28年度)	→	13件(29年度)
企業の状況把握のための訪問数	：	284社(28年度)	→	400社(29年度)

3 高付加価値のものづくり・販路開拓の支援

研究開発や販路開拓といった市内の中小企業者等が求める支援を行い、さらなる事業の拡大を図ります。また、本市産業を牽引していくような事業に対しては、継続的に支援を行います。

特に、本市の基幹産業である繊維産業については、国内外への販路開拓や、新分野展開・新製品開発等の取組に対して、重点的な支援を行います。

また、市内企業の優れた製品や技術力を紹介するため立ち上げた「福井市ものづくり企業縁活サイト」については、対象業種の拡大を図り、積極的な活用を促進します。

ものづくり・販路開拓・人材育成設備投資等への支援件数	：	53件(28年度)	→	75件(29年度)
新事業創出支援事業による支援件数(累計)	：	3件(28年度)	→	4件(29年度)
繊維関連事業者の国内外での販路開拓に係る商談成立件数	：	5件		
ものづくり企業縁活サイト登録企業件数	：	137件(28年度)	→	200件(29年度)

4 起業家創出の促進

本市における産業の活力を高めるため、企業の採用意欲が強い中でも、創業の動きを活性化していく必要があることから、福井市創業支援事業計画に基づき、認定連携創業支援事業者（福井商工会議所、NPO 法人アントレセンター）や市内金融機関等との連携を強化し、市内での創業者、特に女性起業家の増加を図ります。

また、企業家精神の醸成を目的に開催している福井発ビジネスプランコンテストについて、応募プランの事業化への動きの活性化を支援していきます。

さらに、近年問題になっている事業承継については、税理士等の専門家によるサポート体制の充実を図るとともに、企業訪問等を通じて対象の把握に努め、商工会議所が設置している専門機関等と適切に連携して支援していきます。

市内での創業者数	: 92 人（28 年度）→ 100 人（29 年度）
女性起業家に対する財政支援件数	: 29 件（28 年度）→ 30 件（29 年度）
事業承継相談件数	: 5 件

5 農商工連携の推進

平成 28 年度に施行した「おいしいふくい条例」の普及や取組の啓発、「ふくいの恵み」認定商品の認知度向上を図るため、市内百貨店での「おいしいふくい大博覧会」や観光・農政部局と連携した県外での物産展の開催など、「ふくいの恵み」認定商品を始めとした福井の食の普及、振興に取り組みます。

また、県外での販路拡大を図るため、東京事務所と連携して県外の新たな取引先の獲得を目指します。

さらに、福井国体開催や北陸新幹線福井開業などを控え、今後需要が見込まれる福井のお土産の開発について引き続き取り組みます。

市内百貨店での物産展の開催	: 6 月
「ふくいの恵み」認定商品販売額	: 214,812 千円（28 年度）→ 330,000 千円（29 年度）
お土産の開発品数	: 5 品

6 金融・経営支援の充実

金融機関に対し融資制度を周知することで利用促進に努めます。

また、金融機関等との情報交換により、中小企業を取り巻く環境や個別の経営動向を把握しながら、中小企業者が利用しやすいよう融資制度の充実を図ります。

さらに、中小企業者の経営改善を支援するため、経営専門指導員によるフォローアップや、関係機関と連携した経営力向上事業に継続して取り組みます。

金融機関に対する融資制度説明会の回数	: 5 回
金融機関及び経済団体等との情報交換回数	: 24 回（28 年度）→ 25 回（29 年度）
中小企業者へのフォローアップ件数	: 135 件（28 年度）→ 140 件（29 年度）

Ⅱ. 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります

7 まちなかの様々な賑わいづくりによる魅力向上

ハピリン・ハピテラスにおける集客を、アオッサから西武福井店を結ぶ賑わい軸全体へ効果的に波及させるため、電車通りにおいて路面電車を走行させながらイベントを開催し、エリア内の回遊性向上を図ります。

また、民間が主体となるまちづくり活動を支援し、まちなかの多様な魅力向上を図ります。

まちフェス集客数	: 34,926 人（28 年度）→ 36,000 人（29 年度）
まちなか活性化交流イベント実施件数	: 10 件

8 リノベーションによるまちづくりの推進

老朽化した遊休不動産を有効活用し、地域の価値向上を図るリノベーションによるまちづくりを推進するため、その担い手を育成するセミナーの開催と、市街地中心部における賑わいの拠点となるリノベーションに取り組む出店者を支援します。

遊休不動産の有効活用セミナー等の参加者及び見学者数	: 500 人（29 年度）
リノベーション物件への出店支援件数	: 3 件

Ⅲ. U・Iターン 就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します

9 U・Iターン就職の促進

学生向けの事業として、合同企業説明会のほか、市内企業で働く魅力について考える「ふくいU・Iターンサマーキャンプ」や経営者との座談会を開催します。また、保護者からの情報提供や意見が、学生の就職活動に与える影響が大きいことから、保護者を対象とした就活応援セミナーや相談会を開催します。

社会人向けの事業として、移住希望家族を対象に、企業訪問や移住者との交流会などを組み合わせたツアーを新規に開催します。また、U・Iターン者を雇用する企業に対し雇用奨励金を支給し、U・Iターン就職を促進します。

「おしごとネット」やツイッターによって情報発信するほか、東京事務所に新たに配置したU・Iターンアドバイザーの活用やハローワークなど県外の関係機関との連携により、事業の広報や参加者募集を行います。

U・Iターン就職促進事業を利用して就職した学生及び社会人の数 ： 13人(28年度) → 60人(29年度)

10 就労機会の創出

若年無業者を対象とした相談会を開催し、若者の就労を支援します。また、国のトライアル雇用やキャリアアップ助成金（正社員化コース）を活用し、若者を継続して正規雇用する中小企業に対し、奨励金等を支給し若年者の雇用の安定化に取り組みます。

キャリアアップを目指す女性を対象とした就職支援セミナーや、ハローワーク福井のマザーズコーナーと連携したミニ面接会を開催します。

福井市シルバー人材センターの事業運営を補助し、高齢者の就労及び社会参画を支援します。

就職支援事業を利用して就職した若者及び女性の数	： 54人(28年度)	→ 110人(29年度)
シルバー人材センター会員の就業率（※）	： 77.0%（28年度）	→ 78.0%（29年度）

※ シルバー人材センター会員の就業率

（就業者数/シルバー人材センター会員数）

平成28年度実績 1,730/2,247 ≒ 77.0%

平成29年度目標 1,752/2,247 ≒ 78.0%

1 1 ワークライフバランスの推進

ワークライフバランスを推進するため、労働時間の縮減や柔軟な働き方の導入、育児休業や介護休業の取得促進、イクボス（※）の養成など、職場環境の改善に取り組む市内中小企業等に対して補助します。

また、育児や介護を理由とした離職を防ぐため、短時間勤務制度等の利用や代替要員の配置を始めて行った企業に対して支援します。

ワークライフバランス推進事業による支援企業数 ： 22 件(28 年度) → 35 件（29 年度）
--

※ イクボス

職場で共に働く部下の仕事と生活の両立を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと。

IV. 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

1 2 競輪事業の継続

F I ナイター場外発売（※）を拡充し、ナイター開催場との関係を深めるとともに、新たに専門官を配置し、職員が一丸となって全国の競輪施行者への営業強化を図り、福井競輪開催時の車券売上額の向上と収益を確保します。

また、競輪場への来場を促進するため、ショッピングセンターへの出向宣伝や各種イベントを実施し、新規ファンとリピーターの獲得に取り組みます。

継続する中央スタンド棟耐震補強工事については、7 月に開催する記念競輪「不死鳥杯」のリニューアルオープンに向けて、安全・着実に工事を進めます。

F I ナイター場外発売に係る車券売上額 ： 33,700 千円(28 年度) → 110,000 千円（29 年度）
中央スタンド棟耐震補強工事完了 ： 7 月

※ F I ナイター場外発売

他の競輪場が開催する F I グレードのナイター競輪車券を福井競輪場で発売すること。

V. (I) 食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします

1 3 観光産業の振興

観光産業の振興を図るため、福井市観光振興計画に基づき関係部局が連携して取り組むとともに、福井市観光振興計画推進委員会を引き続き開催し計画の進行管理を行います。

また、将来のリピーターにつながる教育旅行や学生合宿の受入、コンベンションなどMICE（※1）誘致を積極的に推進し、新たな観光需要の掘り起こしを行います。

特に、平成31年度に開催予定の第32回宇宙技術および科学の国際シンポジウム（ISTS※2）については、県と連携し準備を進めていきます。

さらに、福井国体や東京オリンピック、北陸新幹線福井開業に向け、市内での宿泊や滞在時間の延長につながる体験交流型観光メニューの充実に取り組み、観光消費の拡大を促進します。

福井市観光振興計画推進委員会の開催	: 2回（7月・9月）	
市内宿泊者数	: 72万人（28年）	→ 74万人（29年）
市内コンベンション開催件数	: 110件（28年度）	→ 130件（29年度）
市内観光消費額	: 265億円（28年）	→ 270億円（29年）
体験交流型観光メニュー数	: 20個	

※1 MICE

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う会議・大会（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition／Event）などを包括した新たな集客施策

※2 ISTS（International Symposium on Space Technology and Science）

国内外の宇宙分野の研究者等が日本に一堂に会し、研究発表や討論を実施するシンポジウム

1 4 「一乗谷」への観光誘客と一乗谷朝倉氏遺跡の環境整備

日本で唯一、戦国期の城下町跡がそのまま残る日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」のイメージアップを図るため、一乗谷ディスカバリープロジェクトのメンバーによる情報発信を進めます。

また、時代衣装を身に着けたパフォーマーによるガイドや着付け体験などを実施するとともに、「越前朝倉戦国まつり」や「越前朝倉万灯夜」を始めとする地域が主体となっていく事業を支援し、一乗谷朝倉氏遺跡の活用推進と観光誘客を図ります。

さらに、遺跡へのアクセスを充実させるために、一乗谷朝倉特急バスを継続して通年運行し、永平寺町との連携を図りながら、日本一の戦国城下町のフィールドミュージアムを目指してエリア全体の魅力向上に取り組めます。

併せて特別史跡の保存・管理と環境整備を行うとともに、地権者及び関係機関と協議し史跡範囲の公有化を進めます。

時代衣装着付け体験サービス利用者数	： 1,316 人（28 年度） → 1,350 人（29 年度）
一乗谷観光客入込数	： 90 万人（28 年） → 110 万人（29 年）
復原町並武家屋敷扉修理工事完了	
史跡公有化（計 5 筆）完了	

15 「まちなか」への観光誘客

一年を通してまちなかの観光誘客を図るため、春には「ふくい春まつり」、夏には「福井フェニックスまつり」、また、春と秋の愛宕坂灯の回廊やイルミネーションなど、季節ごとのイベント等を開催してまちなかの賑わいを創出するとともに、福井の魅力を体感できるまち歩きガイドツアーを実施します。

また、福井駅を基点にまちなかの観光地を巡る「まちなか観光周遊バス」を、観光に適した春から秋にかけて運行し、足羽山やグリフィス記念館、養浩館庭園等を結ぶことで、まちなかの周遊を促進します。

さらに、足羽山の新鮮な情報をホームページで発信し、双方向で交流できる SNS を活用しながら、市民と協働して足羽山の魅力を向上します。

まちなか観光客入込数	： 157 万人（28 年） → 159 万人（29 年）
観光案内所案内人数	： 67,301 人（28 年度） → 70,000 人（29 年度）

16 「越前海岸」への観光誘客

福井が全国に誇る「越前がに」や、透明度が高い海の海水浴等のイメージポスターを、北陸新幹線沿線の駅や中京圏の高速道路サービスエリアに掲出するとともに、海開きにあわせて集客イベントを実施することで、越前海岸への誘客につなげます。

また、地域で観光のまちづくりに取り組む団体や若者等を支援し、連携していくとともに、自然あふれる越前海岸ならではの体験観光メニューの造成に取り組みます。

さらに、リニューアルオープンするガラガラ山越前水仙の里キャンプ場を PR することで、一年を通した越前海岸への誘客を図ります。

越前海岸の体験交流型観光メニュー数	： 5 個
越前海岸観光客入込数	： 48 万人（28 年） → 53 万人（29 年）

Ⅵ. (Ⅱ) 福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします

17 おもてなしの心の醸成

本市を訪れる多くの観光客が「再び訪れたい」と思うような観光のまちづくりを進めるため、ホスピタリティの醸成や観光関連事業者等の資質向上など、観光客を温かく親切に迎える「観光おもてなし市民運動」を市民総ぐるみで進めます。

また、おもてなしに関する講習会や研修会を継続して開催するとともに、おもてなし運動推進の牽引役となるおもてなしの達人「おもてなしマイスター」のレベルアップを図ります。

さらに、歴史ボランティアバンク「語り部」の活動を支援するとともに、新たなガイドルートを開発し、観光商談会等で旅行商品としてPRするなど、市民や観光客が名所・旧跡に気軽に触れ歴史を学ぶ機会を増やします。

福井市を訪れて良かったと感じた人の割合（※）	：	88.8%（28年度）	→	90.0%（29年度）
「語り部」による案内人数	：	9,746人（28年度）	→	11,100人（29年度）

※ 福井市を訪れて良かったと感じた人の割合

（市に好意的な意見の数／おもてなし体験だよりの意見の数）

平成28年度実績 167／188 ≒ 88.8%

平成29年度目標 市に好意的な意見の数／おもてなし体験だよりの意見の数 ≒ 90.0%

18 観光施設の整備

足羽川桜並木などの観光地の美化や、観光トイレ等の施設を安全・快適に利用してもらうための維持管理に努めます。併せて、観光トイレの洋式化を進めます。

また、老朽化した美山森林温泉みらくる亭について、一乗谷や永平寺に近く、森林に囲まれたロケーションを活かして、ユニバーサルデザインに配慮した大規模改修の基本計画を策定します。

観光トイレの整備	：	2カ所
美山森林温泉みらくる亭大規模改修基本計画策定		

Ⅶ. (Ⅲ) 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

19 観光情報の発信

観光パンフレット、ホームページ、テレビや新聞等の情報発信に加え、首都圏や北陸新幹線沿線などの駅や高速道路サービスエリアにポスターを掲出します。

また、フェイスブックでの情報発信、フィルムコミッション事業（※1）などを通してふくいの魅力発信を行います。

県外での出向宣伝については、首都圏からの観光誘客を図るため、東京事務所と連携しニーズ

の把握や情報発信を強化するとともに、旅行会社や出版社への旬な情報の発信や、福井市観光大使（※2）や福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」の積極的な活用により、本市のイメージアップを図ります。

観光関連新聞記事の掲載面積	: 56,929 cm ² （28年度）→ 60,000 cm ² （29年度）
出向宣伝や旅行会社への営業、商談会への参加	: 185回（28年度）→ 190回（29年度）
朝倉ゆめまるフェイスブックでの情報発信回数	: 150回（28年度）→ 160回（29年度）

※1 フィルムコミッション事業

映画・テレビドラマ・CM等の映像作品の撮影が円滑に行われるための支援を行う事業。

※2 福井市観光大使

福井市の観光資源を紹介し、観光振興とイメージアップを図る大使
（前川 清氏、パッケン氏、清水 邦広氏、津田 寛治氏）

Ⅷ.（Ⅳ）多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます

20 国際交流の活用と多文化共生のまちづくり

市やふくい市民国際交流協会が行う福井市国際文化交流大使（FCA※）やボランティアを活用した異文化に対する理解を深める事業を通して、市民の意識を醸成し、日本人市民も外国人市民も安心して暮らせる多文化共生の地域づくりを進めます。

市及びふくい市民国際交流協会が実施する国際交流事業等への市民の参加者数
: 4,354人（28年度）→ 4,500人（29年度）

〈内訳〉

国際交流・多文化共生事業の参加者数	: 3,658人（28年）→ 3,750人（29年度）
ジュニア大使派遣・受入事業の参加者数	: 696人（28年）→ 750人（29年度）

※ FCA(Fukui City International Cultural Ambassador)

姉妹都市(アメリカ合衆国ニューブランズウィック市・フラトン市)から招へいた、小学校等での国際理解教育に携わる福井市国際文化交流大使。

2 1 インバウンド誘客の強化

外国人観光客を本市に呼び込むため、親日家の多い台湾やタイを対象に営業活動を行うとともに、タイに向けたメディアや観光情報冊子を活用した情報発信を行い誘客に努めます。

特に、タイや台湾からの訪日旅行について、日本でコーディネートを行う観光事業者やインバウンド関連メディア等を対象とした現地視察ツアーを実施します。

また、タイにおいてテレビ番組の制作を行うことで、直接、現地の旅行者や消費者へ福井の魅力を発信します。

さらに、ヨーロッパ圏からの誘客に向けて、パリで開催されるジャパンエキスポに本市PRブースを初出展するとともに、新たにクレア（※）パリ事務所へ派遣した職員と連携して営業活動を行います。

併せて、今後、さらに増加する外国人観光客に対応するため、通訳ボランティアを育成します。

外国人宿泊者数（市調査）	：	8,400 人（28 年）→ 13,000 人（29 年）
ヨーロッパ圏都市交流事業の実施		
欧州でのイベントにブースを出展	：	7 月
通訳ボランティア育成事業の参加者数	：	150 人

※ クレア（一般財団法人 自治体国際化協会）

自治体に取り組む課題について、国際的な視野に立った戦略・事業運営を支援する組織

Ⅷ.（V）文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

2 2 文化芸術活動の交流促進と文化会館の再整備

子どもから大人まで身近に文化芸術に触れ、創作活動に参加できるよう、舞台芸術の鑑賞や体験する機会の充実を図るとともに、福井市文化協会が主催する市民文化祭の開催や各種文化団体の活動を支援し、市民の文化活動の交流と文化芸術に出会い親しめる機会を増やします。

また、文化芸術活動の拠点施設である文化会館の再整備に向け基本計画を策定します。

市民文化祭参加者数	：	6,161 人（28 年度）→ 7,100 人（29 年度）
文化会館利用者数	：	104,091 人（28 年度）→ 104,500 人（29 年度）
文化会館整備基本計画の策定		

2 3 まちなか文化施設の魅力向上と情報発信

養浩館庭園では、名勝庭園の歴史的価値を後世に継承するため、保存活用計画に基づいた管理運営を行うとともに、受付棟を改修し来園者の利便性を向上します。加えて、御茶席や聞香会、伝統文化をテーマとした体験事業や、気軽に名勝庭園でくつろぐための庭カフェ開設など、庭園の魅力を活かした事業を実施して観光誘客を図ります。

橘曙覧記念文学館と愛宕坂茶道美術館では、大政奉還 150 周年を記念した橘曙覧や松平春嶽、橋本左内等、幕末を生きた偉人を紹介する特別展や、ゆかりの地をめぐるガイドツアー、幕末明治の福井をテーマにした歴史講座等を開催し、福井の魅力を発信します。

グリフィス記念館では、「グリフィス御伽噺」の和訳や絵本作成を行うとともに、これらを活用した朗読会を開催するなど、グリフィスの魅力を知ってもらう事業を実施して観光誘客を図ります。

文化施設（※）入場者数	: 112,312 人（28 年度）→ 113,190 人（29 年度）
養浩館庭園受付棟庇改修工事	

※ 文化施設

養浩館庭園、愛宕坂茶道美術館、橘曙覧記念文学館、グリフィス記念館

2 4 美術館企画展等の開催

世代を超えて気軽に芸術に親しめるよう、分野・時代・地域など美術の多様性を活かし、開館 20 周年と高田博厚没後 30 周年を記念した魅力ある企画展（※）を開催します。各企画展の内容に合わせて、学生や事業主など広報対象を明確にするとともに、テレビ・SNS・チラシなどの広報媒体を適切に選択し効果的な情報発信を図ります。

また、企画展に関連したアトリエ講座などを開催して、美術を身近に感じる体験が楽しめる機会を提供します。

さらに、本市の美術文化の向上を図るため、第 30 回を記念する「市美展ふくい」の開催や展示室等の貸出を行い、市民が芸術活動を発表できる機会を提供します。

企画展入場者数	: 39,425 人（28 年度）→ 63,000 人（29 年度）
子どもアトリエ開催数	: 9 講座
市民アトリエ開催数	: 9 講座
市美展ふくい開催	: 5 月
総入館者数	: 71,933 人（28 年度）→ 95,000 人（29 年度）

※ 企画展

「版画にみる 美しき時代 ベル・エポック展」	平成 29 年 6 月 3 日～ 7 月 9 日
「フィンランド・デザイン展」	平成 29 年 7 月 22 日～ 9 月 3 日
「没後 30 年記念 高田博厚展」	平成 29 年 9 月 16 日～ 11 月 5 日
「エドワード・ゴッリーの優雅な秘密展」	平成 30 年 2 月 17 日～ 3 月 25 日

2 5 郷土歴史博物館企画展等の開催

郷土の歴史・文化への誇りを育み発信できるよう、文献・考古・美術史という様々な分野から地域の歴史・文化に関わりの深いテーマを厳選し、魅力ある企画展(※)を開催します。また、SNSの特性を活用した広報に努め、企画展の魅力を広く発信します。

教育普及活動の充実にも努め、福井の歴史を楽しく学ぶ機会を提供するとともに、養浩館庭園と連携してまちなか観光の推進につなげます。

企画展入場者数	: 22,855 人 (28 年度) → 24,600 人 (29 年度)
特別展・企画展ギャラリートークの回数	: 28 回 (28 年度) → 30 回 (29 年度)
総入館者数	: 79,254 人 (28 年度) → 79,500 人 (29 年度)
収蔵資料数	: 40,653 点 (28 年度) → 40,700 点 (29 年度)

※ 企画展

「刀に彫る一刀身彫刻の世界ー」	平成 29 年 3 月 24 日 ~ 5 月 7 日
「お殿様のおくりもの」	平成 29 年 7 月 21 日 ~ 8 月 27 日
「さよなら江戸幕府ー大政奉還と幕末の二条城ー」	平成 29 年 10 月 13 日 ~ 11 月 26 日
「江戸・京・大坂と城下町福井」	平成 30 年 3 月 24 日 ~ 5 月 7 日

2 6 自然史博物館企画展等の開催とセーレンプラネットの運営

郷土の豊かな自然や、広大で未知な宇宙・天文について興味深く学べる機会を提供し、自然科学への関心を高めてもらえるよう、魅力ある企画展(※)を開催します。

また、子どもたちには、企業訪問などで自然科学が社会に貢献していることを伝えるキャリア教育の機会を提供します。

自然史博物館では、足羽山を訪れる人々の満足度を高めるため、足羽山のビジターセンターとしての機能強化や眺望の良い白山テラスの活用、バリアフリー等の計画・設計を進めます。

セーレンプラネットでは、ドームシアターなどの様々なイベントの開催や、ハピリンと周辺施設、交通事業者等と連携を進めることで、中心市街地のにぎわい創出につなげます。

自然史博物館入場者数	: 18,713 人 (28 年度) → 26,000 人 (29 年度)
セーレンプラネット入場者数	: 126,350 人 (28 年度) → 127,000 人 (29 年度)
企画展入場者数	: 20,922 人 (28 年度) → 21,000 人 (29 年度)
産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数	: 44 人 (28 年度) → 100 人 (29 年度)

※ 企画展 (自然史博物館)

「蝶と蛾とーとってもステキな自然のデザイナーー」	平成 29 年 3 月 18 日 ~ 5 月 28 日
「夜空を彩るスペーストラベラーー彗星ってどんな星ー」	平成 29 年 7 月 15 日 ~ 10 月 1 日
「高浜の化石 亜熱帯の海」(仮)	平成 30 年 3 月 17 日 ~ 5 月 20 日

企画展（セーレンプラネット）

「SETI ってなあに」 平成 29 年 3 月 15 日～ 5 月 8 日

「太陽～母なる星のヒミツ」 平成 29 年 7 月 20 日～9 月 11 日

「藤田良雄展」（仮） 平成 29 年 11 月 15 日～平成 30 年 2 月 11 日

2 7 観光と文化の連携強化

地域に埋もれている特色ある歴史・文化資源等を、観光資源として活用するモニターツアーを実施します。

また、博物館等の情報発信を強化するため、各施設のイベントを集約した博物館だよりを発行します。

さらに、市内 11 の施設に入館、入園できる共通観覧券の周知に努めるとともに、リニューアルした歴史・文化資源を紹介するホームページや観光 P R のツールを活用し、観光客の利便性の向上と誘客を図ります。

加えて、大政奉還 150 周年記念展や出張博物館など、各施設合同による体験連携事業を実施します。

歴史・文化資源を活かしたモニターツアーの実施

博物館だより（仮称）の作成 ： 4 回

体験連携事業「ミュージアムコーポレーション事業」（※）の実施

※ ミュージアムコーポレーション事業

歴史や文化、自然など、各博物館等が持つ特色と強みの部分を活かしながら、共通のテーマに沿った体験学習や展示等を連携して行う事業